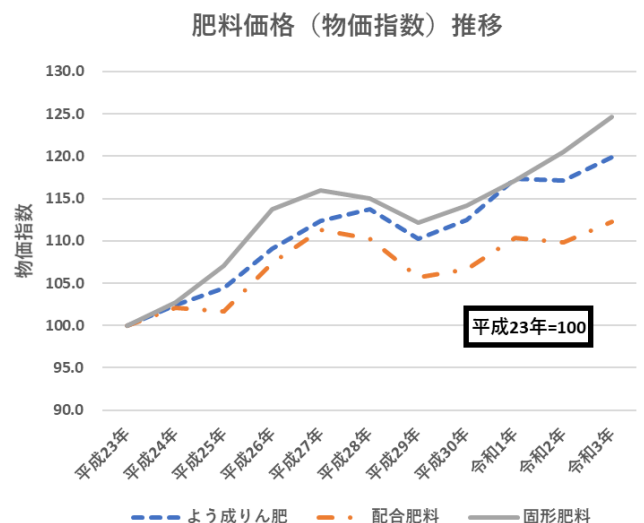
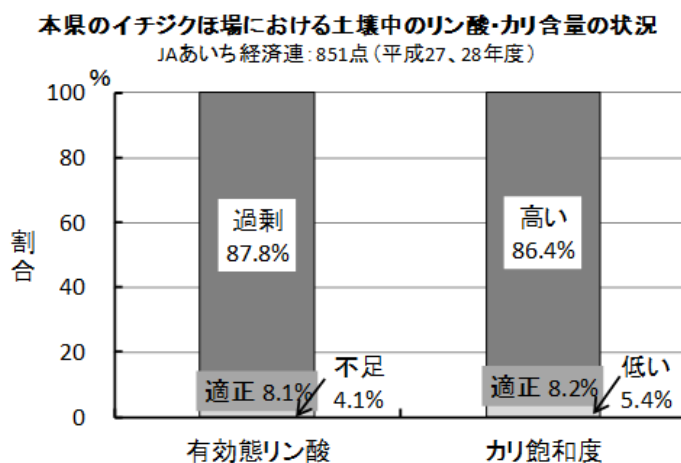


イチジク L 型有機配合822の導入に向けて

愛知県農業総合試験場普及戦略部技術推進室

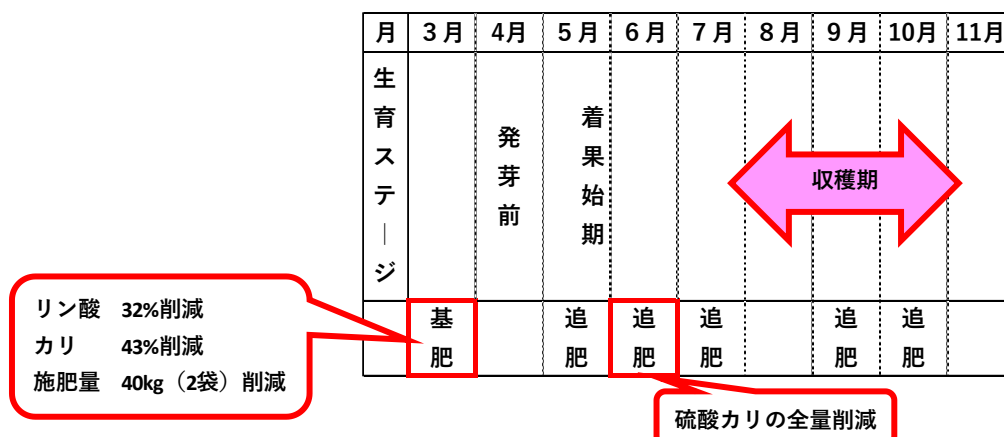
＜背景・目的＞

県内イチジク産地では、長年の施肥により、リン酸、カリが過剰に蓄積した園が多数見られるが減肥栽培は進んでいない。肥料価格は 2008 年の高騰時ほどではないが上昇傾向にある。その一方でイチジク果実の販売単価はほとんど変わらないことから、今後のイチジク生産を維持していくためには生産コストの低減が必要である。



＜新たな施肥体系イメージ＞

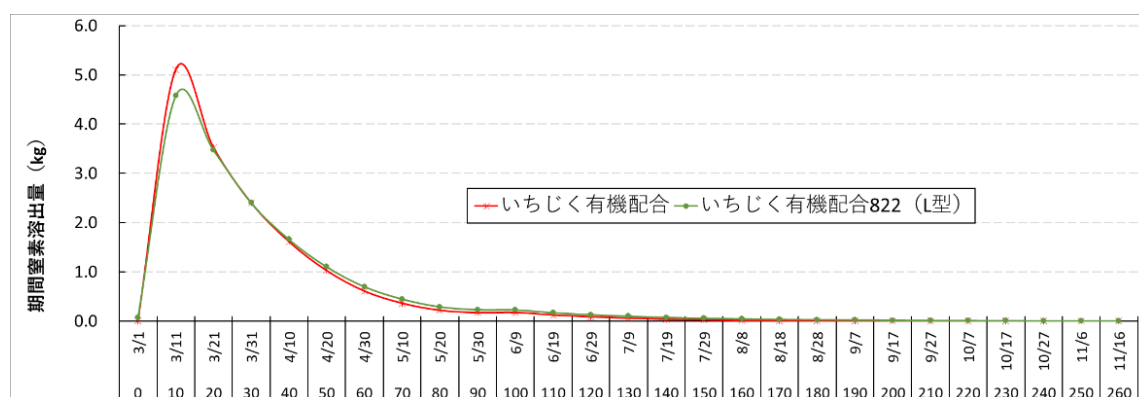
リン酸・カリ減肥による新たな施肥体系イメージ



＜新たな肥料の特徴＞

- ・ いちじく有機配合822 窒素—リン酸—カリ＝8—2—2（従来品6—5—5）
- ・ 有機率（重量）が、約65％から約74％へ。
- ・ 施肥量の目安が10a 当たり 160kgから120kgへ。
- ・ チッソ成分に占める緩効性成分（CDU 態窒素）の割合は従来品と同じ（全チッソの約 16％）であり、肥効は従来品と同じであることを確認している。

期間窒素溶出量



既存の施肥体系（成木：5年生樹以上）

(kg/10a)

施用時期	肥料名	施肥量	窒素	りん酸	加里
3月 上旬 基肥	いちじく有機配合655	160	9.6	8	8
5月 下旬 追肥	粒状固形30号（小粒）	20	2	2	2
6月 中旬 追肥	硫酸加里	10	—	—	5
7月 上旬 追肥	てまなしくん	80	8	6.4	8
9月 下旬 追肥	ダブルクイック660	5	0.8	0.3	0.5
10月 下旬 礼肥	燐硝安加里S604	10	1.6	1	1.4
合 計			22	17.7	24.9

※ 9月下旬、10月上旬、中旬の施肥は樹勢、葉色、果実肥大により実施する。

L型配合肥料を使った新たな施肥体系

(kg/10a)

施用時期	肥料名	施肥量	窒素	りん酸	加里
3月 上旬 基肥	いちじく有機配合822	120	9.6	2.4	2.4
5月 下旬 追肥	粒状固形30号（小粒）	20	2	2	2
6月 中旬 追肥	硫酸加里（注）	10	—	—	(5)
7月 上旬 追肥	てまなしくん	80	8	6.4	8
9月 下旬 追肥	ダブルクイック660	5	0.8	0.3	0.5
10月 下旬 礼肥	磷硝安加里S604	10	1.6	1	1.4
合 計			22	12.1	14.3

（注）土壌診断結果に応じて、加里過剰園は施用量を減らす。

※ 9月下旬、10月上旬、中旬の施肥は樹勢、葉色、果実肥大により実施する。

<導入肥料（いちじく有機配合 822（L 型）のメリット>

- ・基肥の施肥量が10a 当たり40kg（2 袋）減らすことができ、トータルの肥料価格の低減を図ることができるとともに施肥作業の軽労化につながる。
- ・2年間、8ヵ所の現地試験の結果より、果実品質、樹の生育への影響はない。
- ・愛知県農業総合試験場園芸研究部落葉果樹研究室の5年間の試験においても、生育・収量・品質に影響がないことが確認されている。

<本手引は、生産体制・技術確立支援事業を活用して作成しました>